

令和5年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
70	川崎市立 南野川小学校	西村 勇一郎

学校教育目標	今年度の重点目標
<ul style="list-style-type: none"> ○たくましい子(心身共に健康で最後まで頑張りぬく子) ○のびる子(主体的に学び、友達と共に成長する子) ○力を合わせる子(友達の気持ちを考え、心と力を合わせて活動する子) ○あかるい子(丁寧なあいさつができ、心豊かにかかわる子) 	<ul style="list-style-type: none"> ○学ぶ意欲を高め、協働的学習による質の高い授業づくり ○心が通い合う温もりと落ち着きのある環境づくり ○児童の生命・安全、心と体の健康を最優先する体制づくり ○家庭、地域との協力関係を深める中での信頼関係づくり

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1 教科指導	<ul style="list-style-type: none"> ・GIGAスクール構想ステップ3への移行に伴う、さらなる効果的な活用を図る ・校内研究研修を生かしての言語活動の充実を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ・GIGA推進担当による的確な情報伝達等で、活用推進が図れた ・国語科を中心として授業力向上につながった 	<ul style="list-style-type: none"> ・ステップ3習得を目指し、児童の実態に応じた授業づくりを行うための教材研究と学習用端末活用場面の工夫をしていく ・授業研究会や各種研修会等に教員が積極的に参加するなどして見識を深めていく
2 特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> ・校内の人材だけでなく、外部講師、教育サポーターやボランティアなど、多様な人材を活用することで丁寧で細やかな対応をする 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援教育課や総合教育センター指導主事による指導を生かしたり、支援級の高度なチーム力によるきめ細やかなサポートで、成果を得ることができた 	<ul style="list-style-type: none"> ・安定した対応が可能となるためのボランティア人材を確保し、サポート体制の強化を図る
3 児童理解	<ul style="list-style-type: none"> ・担任、支援教育コーディネーター、ケース会議、校内支援委員会が機能し、連携できるようにする ・SOS受け止め方出し方教育やジェンダー教育の推進を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて会議を開くことができ、情報交換をすることができた ・計画に従って、授業を行うことができた 	<ul style="list-style-type: none"> ・会議を開きにくい風潮があるが、必要があればケース会議等は優先して設定するよう確認する ・ジェンダー教育については今一歩踏み込んで、研修等を充実させていく
4 児童指導	<ul style="list-style-type: none"> ・支援教育コーディネーターを中心として、学年、養護教諭、管理職が連携して、児童の問題行動や諸問題に対応していく ・日頃の児童の行動観察をしっかりと行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ほうれんそう」の徹底や情報交換の充実など、支援教育コーディネーターに気軽に相談できる雰囲気づくりができていく ・授業中に限らず、休み時間や給食時間等も含めて、児童のちょっとした変化を見逃さないようにする 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題のある児童への対応事例の作成と職員間の共通理解をさらに深める ・児童の行動の見取りのポイント等についての研修の機会をもつ
5 保護者対応	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の家庭環境や成育歴、保護者の教育方針などの把握に努め、保護者と連携して児童指導や問題行動に対応していく ・早期対応、早期解決を徹底する 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援教育コーディネーターや教頭、教務主任を窓口とした教育相談の体制、家庭と連携した児童指導体制が確立してきた ・保護者の理解と協力により、日々の教育活動が保障された 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校ホームページ、学校説明会、懇談会等の機会や学校便り等を活用することで、支援教育コーディネーターと教育相談システムの広報とさらなる周知を図る ・協力への感謝の気持ちを伝え、さらに協力依頼をしていく
6 関係諸機関との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・指導や相談が必要な場面で、外部機関と支援教育コーディネーター、ケース会議、校内支援委員会の役割を明確にすることで、迅速で効果的な対応を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ・区の教育担当との連携に加え、児童相談所、主任児童委員、民生委員、町会長との連携体制が構築されている ・学校運営協議会の設置により、さらに連携が深まった 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援教育コーディネーターを中心とした校内支援体制を強化し、関係機関や地域との連携を維持していけるようにする
7 地域との連携・特色ある教育	<ul style="list-style-type: none"> ・夢教育21の活用と外部講師やボランティアによる教育活動の実施、地域における行事等への参加と交流活動の充実を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ・長年続くお話し会や和装礼法、野菜作りの活動などは本校の特色ある活動として根付いている 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年間の確実な引き継ぎや指導計画の整備・調整を早期に行うことで、継続的な取り組みにつながる
8 業務改善・教職員の働き方	<ul style="list-style-type: none"> ・勤務時間管理の徹底を図る ・勤務時間や健康管理を意識した働き方の推進を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員情報システムの正確な運用を進める ・長時間労働の原因となる課題の整理と改善策の検討を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ・業務内容の見直しと改善策を推進する ・コロナ禍で止めた活動を復活させるかどうか、慎重に検討する

学校関係者の評価	学校運営のまとめ
<p>学力面に関しては、保護者はどちらかと言えば楽観視している。しかし読書習慣が身につけていないことを心配している家庭が多い。生活面に関しては、友達との関係は概ね良好と感じている保護者が多い。また、挨拶に関しては、地域の方々は様々な捉えをしており、比較的にできている子が多いと感じている方と、もう少し頑張してほしいと感じている方とに分かれる。学校行事を楽しみにしている児童が多いと保護者も捉えている。本校の避難訓練を含めた防災教育への取組に対して、保護者は好意的に受け止めている。しかし、学校施設設備の老朽化への不安を抱えている保護者が多い。今後のスクールバンドの運営について心配している保護者もいる。</p>	<p>今年度、着任したので様子を見る1年であった。目標に対しては、まず「学ぶ意欲を高め、協働的学習による質の高い授業づくり」に関しては、校内研究やGIGAスクール構想の取組を通して、達成できたと捉えている。「心が通い合う温もりと落ち着きのある環境づくり」については、共生共育プログラムや人権尊重教育を進めたことで、授業の充実によって、少なからず効果は得られた。「児童の生命・安全、心と体の健康を最優先する体制づくり」は、学校評価の結果からも分かるように本校が防災安全教育を重要視していることを保護者も理解しているので、児童の防災意識の高まりを実感している。このまま、現在の体制で進めていく。「家庭、地域との協力関係を深める中での信頼関係づくり」は、活発なPTA活動によって、学校への協力体制は万全であり、引き続き現在の関係を継続していけるように努力して</p>